



理事長 院長

大西 英之

巻頭言

～楽しくやりがいのある職場を目指して～

本院が開院してから13年目、今まで手狭になっていた院内環境を改善するため、そして40床の増床に対応するために南館を増築してから早や1年が経ちました。そしてその後の旧館の改築からも、早や8カ月が経ちました。あっという間の1年間でした。今回の一連の工事は私たちにとって第二の病院開院と位置づけ、新たな組織作りと運営方法を求めてやって参りましたが、今一つ上手く回っていないように思えます。

病院の運営において最も大切なことはCS（Customer Satisfaction 患者満足度）とES（Employee satisfaction 職員満足度）をいかに高めるかということだと思います。今回はこのESについてお話したいと思います。今回の一連の工事で職員にとっての労働環境はとってもしっかり良くなったと思っています。しかし先にも述べたように新しい組織になりましたが今一つ上手く回っていないのは、ハード面での改善はできましたが、ソフト面での環境がまだ良くないのではないかと思います。人は転職を考える時、労働環境や労働賃金もその要因ですが一番原因となるのはその職場での人間関係だと言われています。本院においては皆よく頑張っていたが、チームワークも良い方ではないかと思いますが、増床に伴い一挙に約50名の増員がありましたので、まだ混乱しているのではないかと考えております。

人はなぜ山に登るのでしょうか。誰も他人に命じるような事は無い訳ですが、登山家は自ら進んで厳しい冬山やヒマラヤのような高山に出かけます。登頂に成功したからといって特別のものが得られるわけでもありません。そこには自分で計画

し、困難を乗り越え、計画が成就した時に得られる達成感が人をそうさせるのです。登山を医療に置き換えてみましょう。特に我々のような急性期脳神経外科の施設においては、厳しい毎日の連続です。徹夜での救急処置や手術、必ずしも上手く行くとは限らない臨床現場、治療に上手く行かなかったときの敗北感、何でも治って当然と考えているクレマーなどなど…。しかしそんな事ばかりでもありません。もう助からないと思われていた昏睡患者の突然の一言、日に日に良くなるADL、家族からの感謝の言葉、厳しさを乗り越えた時のこれらの感動は我々医療者に何百倍、何千倍もの力を与えてくれます。厳しさは楽しさに置き換えてくれます。我々医療人は幸せです。一例一例条件が違う患者の医療を通じて、まじめに取り組んでいけば我々自身も成長させてくれているのです。皆様の人格も磨かれます。1週間のうち5日は職場で過ごします。その職場が楽しくやりがいがあるところなら、こんな楽しい人生はありません。そうです、楽しい職場にするには職員それぞれが豊かな心と豊かな感性で仕事を続け、そしてチームワークを大切にすればきっと素晴らしい、楽しい、遣り甲斐のある職場になることと思います。今年1年は楽しく遣り甲斐のある職場を目指して頑張りましょう。皆様のご健闘を祈っています。

大西英之